

自転車 の基礎情報



平成29(2017)年2月17日 No. 16

シティ車のチューブ

今回は、シティ車に使われているタイヤの内側にあるチューブです。

シティ車のチューブには、空気が抜けにくいブチルゴムが主に使用されています。走っているときには、外側のタイヤは路面に接触しながら回転し、タイヤと一緒に内側のチューブも回転します。空気が適切に入っているとチューブとタイヤは密着します。それでも回転するので、どうしてもチューブとタイヤは擦れてしまいます。特に、シティ車をこぎ始めたとき、ブレーキをかけたときやコーナーを曲がったときなどには大きな力がチューブにかかってしまうのです。

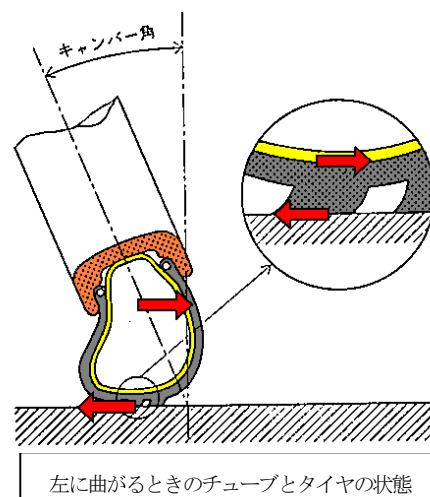
パンクの原因としては、釘など尖ったものが刺さることを思い浮かべますが、チューブ自体の摩耗によることも多いのです。さらに、段差を乗り越えたときに、タイヤとリムとの間にチューブが挟まれることでもパンクをします。

このように、チューブは様々な環境で使用されているため、適切な空気圧でないとチューブの摩耗や損傷が進んでしまい、パンクが起こりやすくなります。

26インチのシティ車には、一般的に英式バルブ、WO(ワイヤードオン)、26×1 3/8というチューブとタイヤが使用されています。そして、チューブの厚さはシティ車であるとスタンダードである0.8mm、強化したものであると1.2mmです。チューブを厚くすることで、空気をより抜けにくくし、チューブが擦れ、挟まれることによるパンクを防ぐことができます。このような特性から1.2mmのチューブは電動アシスト自転車に使用されることが多くなっています。上位モデルには、1.5mmという厚さのチューブも使用されています。

チューブとタイヤには様々なものがあるので、寸法、仕様や特徴が一致した組み合わせにしなければなりません。シティ車を購入するときはもちろんですが、チューブを含めてタイヤを交換するときにも、どのようなチューブ、タイヤが必要なのか、目的や用途をはっきりさせるとよいかもしれません。

次号は、平成29年3月21日に発行を予定しています。



左に曲がるときのチューブとタイヤの状態

<発行>

一般財団法人自転車産業振興協会

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階

電話：03-6409-6922 FAX：03-6409-6868 <http://www.jbpi.or.jp>

